

2020年9月  
函館海上保安部

太平洋セメント(株)、地元消防との3機関合同訓練  
～《訓練》太平洋セメント上磯工場専用棧橋係留中の貨物船で火災発生！！～

令和2年(2020年)9月18日(金)、太平洋セメント(株)上磯工場専用棧橋付近において、太平洋セメント(株)上磯工場、地元消防、地元海上保安部による3機関合同訓練が行われました。当初この合同訓練は9月15日(火)に計画されていましたが、大雨のため順延、訓練代替日の18日(金)も悪天候が懸念されましたが、前日から降り続けた雨が昼前にあがり、午後からはくもり空の比較的コンディションの良い中での訓練となりました。



訓練参加機関は、訓練主体である太平洋セメント(株)上磯工場(北斗市)、地元消防として南渡島消防事務組合(北斗消防署、七重浜出張所)、加えて海上保安庁からは函館海上保安部警備救難課職員、巡視艇ゆきぐも(総トン数100トン、長さ32m)、第一管区函館航空基地所属ヘリコプター(MH910、くまたか1号、シコルスキー76D、全長約16m)、同基地所属の函館機動救難士です。

今回の訓練は、

- ・9月18日、太平洋セメント専用棧橋・第4バースに係留中の大型貨物船の機関室内で火災が発生。乗組員により初期消火を試みるものの鎮火せず。
- ・その後火は、付近構造物に延焼したことから、消火活動を中止し、貨物船乗組員は船外に避難した。

- ・ 棧橋に設置の非常電源、非常ポンプは使用可能であるものの、その他の設備は使用できない状況にある。
- ・ 貨物船乗組員は、棧橋の安全な場所へ避難したものの、初期消火を実施していた乗組員のうち要救助者は2名「1名は自力歩行困難（要救助者A）」、「もう1名は行方不明（要救助者B）」であることが確認された。

というシナリオのもと、次のような流れで訓練が進められました。

- ① 棧橋に係留中の船舶で火災が発生、この火災情報を船舶から太平洋セメント(株)へ報告、会社は事故発生を地元消防に通報、地元海上保安部には地元消防から第一報が入り、訓練がスタートします。
- ② この火災情報を受け、太平洋セメント(株)上磯工場の2階大会議室には「訓練指揮対策本部」、火災現場である専用棧橋上には「訓練現場指揮対策本部」が設置され、それぞれの担当が配置されます。



- ③ 北斗消防から工場へ消防車と救急車が出動するとともに、七重浜出張所から函館海上保安部の巡視艇ゆきぐもと合同で消火作業をする消防隊員が出動します。  
函館海上保安部からは、七重浜出張所の消防隊員を乗船させた巡視艇ゆきぐもが現場に向けて急行します。
- ④ 行方不明者は2名、うち1名（要救助者A）は船内に取り残され、自力歩行困難であることから船外に移動することができないことが判明します。残り1名は依然不明のまま。
- ⑤ 「訓練指揮対策本部」の消防から函館海上保安部経由で函館航空基地に対し、ヘリコプターによる救助協力要請が出され、函館航空基地のヘリコプターが現場へ急行します。
- ⑥ 火災現場である専用棧橋に到着した消防、海保の勢力は、「現場指揮対策本部」から最新の現場情報の提供を受けながら、消防は消防隊員による要救助者の捜索、海保は巡視艇ゆきぐもによる船体への放水を開始します。







- ⑦ 長さ 2 kmある専用棧橋の先端に駆けつけた消防は船内に進入、要救助者 Aの捜索中、要救助者 Bを発見、要救助者 Bは意識不明であり緊急性があることから空路搬送することとし、船外へ搬送を開始します。
- ⑧ 函館航空基地からヘリコプターが飛来し、要救助者吊上げ救助のため、機動救難士がヘリコプターから棧橋へ降下・上陸します。



ヘリコプターから機動救難士 2 名が棧橋に上陸、いざ要救助者の元へ

- ⑨ 要救助者B（意識不明）は消防隊員と函館基地機動救難士によって棧橋先端まで搬送され、再度飛来したヘリコプターが吊上げ救助し、空路搬送します。



ヘリコプターによる要救助者の吊上げ搬送の準備は海保・消防共同で作業



吊上げ救助のためヘリコプターが再接近





ヘリコプターからのダウンウォッシュ（吹き降ろし）は強烈



要救助者をヘリコプターで吊り上げ、市立函館病院へ（想定）

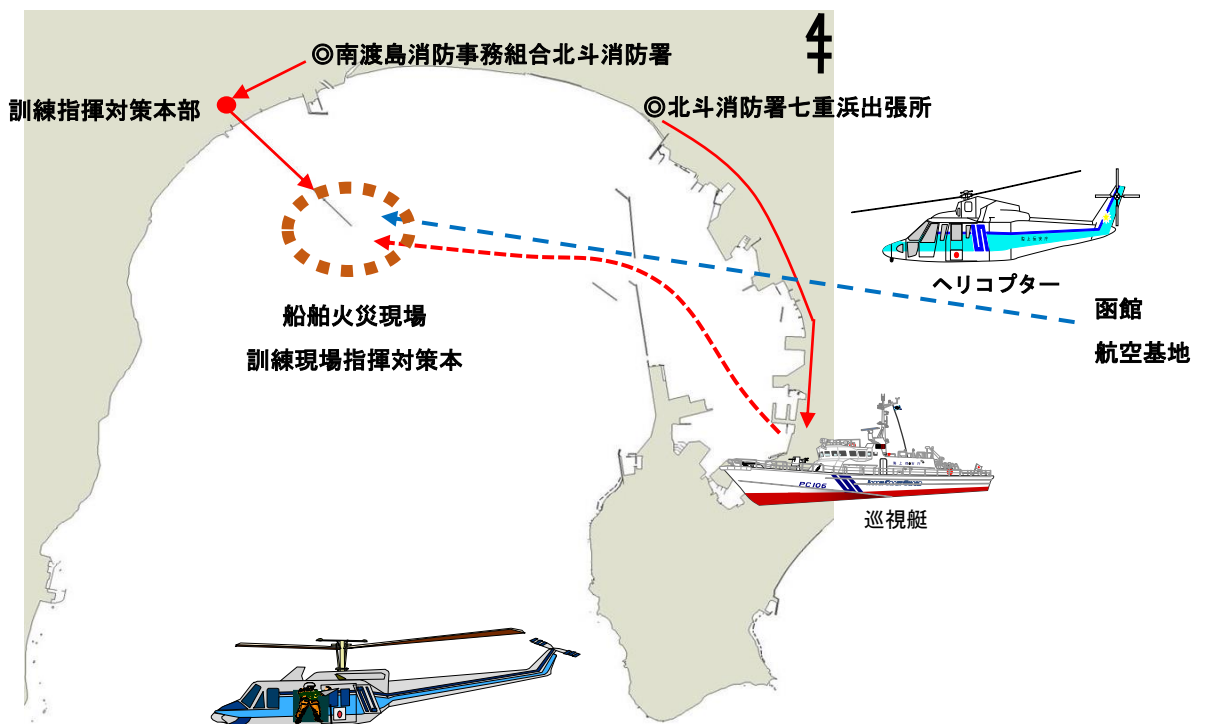


- ⑩ 機動救難士への引継ぎを終えた消防隊員は、その後船内で要救助者A（自力歩行困難）を発見、搬送・救助が行われ、訓練終了となります。

太平洋セメント(株)は、20余年前の1998年(平成10年)に日本セメント(株)と秩父小野田(株)が合併して太平洋セメント(株)として発足していますが、遡れば1890年(明治23年)、北海道セメント(株)として設立されており、ここ道南地区において130年の歴史を有する会社です。

今回の訓練場所となる上磯工場の海上栈橋は、前身の日本セメント(株)上磯工場時代、1970年(昭和45年)に新設され、更に1987年(昭和62年)栈橋の延長工事が行われ、全長約2キロメートルに及びます。

今回の訓練は、陸上部と繋がっているとはいえ、現場は函館湾の中央付近に突出した湾内ともいえるところであり、陸上側からであればトロッコで移動しなければならないこの栈橋先端付近での事故に対し、関係機関が連携、それぞれの強みを活かし、陸・海・空3方面からアプローチした訓練となりました。



要救助者をヘリコプターで吊り上げ、市立函館病院へ(想定)





